

産学連携の促進を目指して 特別講演会

トップニュース Top News



多くの参加者を集めた講演会
= 12月7日, 事務局大会議室で

12月7日, 文部省学術国際局研究助成課の山田道夫研究協力室長を招いて特別講演会「産業界との研究協力がなぜ叫ばれるのか」が開催され, 学内の教官・事務官を中心に約100人が聴講した。

山田室長は, まず「民間等との共同研究」, 「受託研究」, 「奨学寄附金」などの制度の現状を説明した後, 平成10年8月に施行された「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」や平成11年度に新設予定の科学研究費補助金「地域連携推進研究費」について, その趣旨や制度の概要にも触れた。講演の後には, 活発な質疑応答が行われた。



講演する山田室長
= 同上



活発に行われた質疑応答
= 同上





巻頭言

『己卯』の年を迎えて



学長 岡田 晃

今年、^{つちのとう}『己卯』の年。“己”は五行を兌と弟に分けた十干の一つ「土の弟」の意。また、“卯”は言わずと知れた「うさぎ」のこと。これにあやかって、本学が大地に根ざしてたくましく歩み、そして、大いなる飛躍をする一年になればと切に願う。

いま、国立大学は非常に厳しい環境におかれている。国立大学の独立法人化の問題は、政府方針の決定が先送りとはなったものの、一安心するいとまはない。もちろん本学も、“国立”でなくなれば大学の自主的な教育研究活動が保障されない懸念から、いち早く反対を表明している。しかし、今後の大学改革の推進が国立大学の存亡を左右しかねない状況にある。

大学審議会は、文部大臣の諮問を受けて、昨年10月に「21世紀の大学像と今後の改革方策について」の答申を行った。副題が「競争的環境の中で個性が輝く大学」である。これは、個性の伸びない大学へは資源配分も伸びないことを意味する。ある新聞の言葉を借り

れば、「護送船団方式はやめ、脱落していく大学は見放す」である。ということは、金沢大学が“金沢大学らしさ”を持てば、道は開ける。まず、“金沢大学らしさ”をどう共通認識するかである。「金沢大学はどんな大学か」と聞かれて、パッと「こんな大学です」と誇りをもって言えるようであればならない。「個性が輝く」とは、そんなことである。

平成11年。5月には創立50周年を迎える。関係委員会のお力で次第に盛り上がりを見せているが、その時だけのお祭りでは終わらせてはならない。一つの区切りとしてこれをとらえ、この機会に50年後、100年後の金沢大学の在り方を大胆にデザインし、伸ばすべき特徴を大いに伸ばすための“戦略”を展開しなくてはいけない。「理念」づくり、「目標」づくり、「基礎」づくりの年としてほしい。

健康であること、楽しく仕事をするのが、そのための肥しになることを忘れないで...。

今年度初の「平成10年度学外有識者との懇談会(第1回)」を開く

12月1日、事務局大会議室で「学外有識者との懇談会」(通算6回目)が開催された。

今回は、「これからの金沢大学に期待するもの」 大学と地域社会とのかかわり及び特色のある大学づくりについて をテーマに、県内の国の機関の代表者等8名を招いて、社会との交流・連携の推進などについて、活発に意見が交された。



様々な意見が出た懇談会の模様
= 12月1日、事務局大会議室で



= 同上





平成11年度政府予算(案)内示 教育学部附属教育実践総合センター 医学部附属病院周産母子センター の新設などが認められる

12月24日、平成11年度政府予算案が文部省から内示され、
本学関係では、教育学部附属教育実践総合センターや医学部附属病院周産母子センターの新設などが認められた。

内示の概要などは次のとおりである。

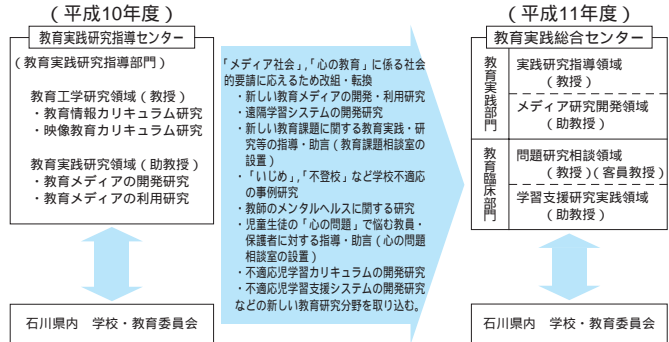
平成11年度政府予算(案)内示の概要

(教育学部附属教育実践総合センター、医学部附属病院周産母子センターの概要は右掲)

大学院	
留学生受入に伴う教官の増(自然)	講師 1
大学	
第3年次定員改訂(理学)	入学定員 10
共通	収容定員 20 教授 1
入学定員の改訂(医学)	入学定員 5 平成13年4月 第3年次編入学定員5
医学科	収容定員 30 収容定員20
臨時増募の廃止(工学)	教授 1(経・一般教育担当), 助教授 1(工・一般教育担当)
土木建設工学科等	入学定員 30
教育実践総合センターの新設(教育)	教授 1, 2 助教授 2, 客員(種)1
アイソトープ総合センターの整備	助教授 1, 助手 1
流動研究部門への定員振替(工学)	助教授 1
電気・情報工学科	東京大学大規模集積システム設計教育研究センター への定員振替
事務組織の見直しによる合理化減	一般職員 2
その他、学年進行分の教官増、臨時増募の廃止(8年度～10年度分)に係る教官の減などがある。	
大学附属病院	
周産母子センターの新設(医病)	助教授 1, 講師 1, 助手 2, 技官 1, 看護婦 16
総合診療部の整備(医病)	講師 1
看護職員の増(医病)	看護婦 1
病院特別医療機械整備費	レーザー治療システム 放射線治療システム 手術用顕微鏡システム 分娩母体監視システム(以上医病)

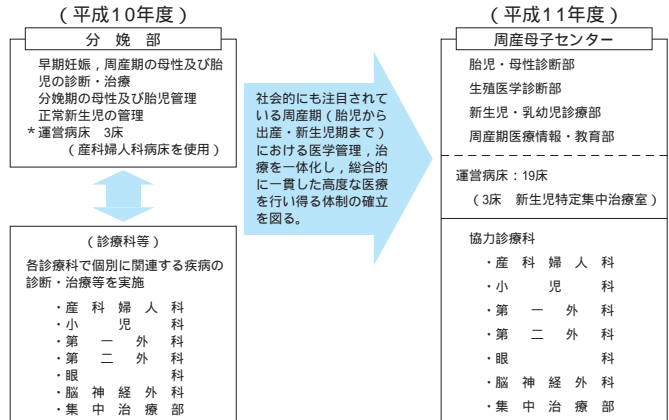
教育学部附属教育実践総合センターの新設の概要

(教育実践研究指導センターの転換)



医学部附属病院周産母子センターの新設の概要

(分娩部の改組)



「金沢大学留学生懇談会」に約360人が参加

岡田晃学長主催の「金沢大学留学生懇談会」が、12月10日、市内のホテルを会場として盛大に催された。同懇談会には、外国人留学生のほかホストファミリーや関係教職員など約360人が集まり、留学生による自国の歌や踊り、本学学生サークル「吹奏楽団」のトロンボーン四重奏、ボランティアたちによる民謡舞踊などが披露され、活発な交流が行われた。



民族衣装に身を包んだ留学生
= 12月10日、KKRホテル金沢(金沢市大手町)で



懇談会での楽しげな1コマ
= 同左



教育学部

石川県・金沢市教育委員会との懇談会を開催



大学側からの説明を行う金子教育学部長
= 12月1日、石川厚生年金会館(金沢市石引)で

教育学部は、12月1日、石川県・金沢市教育委員会と懇談会を開催した。

この懇談会は、学生の教育実習、大学院を利用したの現職教員の再教育及び附属学校園の人事交流などを話題に定期的に開催しているものである。今回は、石川県・金沢市の教育委員会から7名が、教育学部からは金子勲^{しゅうせい}学部長のほか教育実習推進委員や各附属学校園長らが出席して、教育学部改組計画や教員採用の現況等について活発に意見交換が行われた。

“新しい時代の教員養成”をテーマに 「金沢大学教育学部講演会(第2回)を開く

本年度第2回目の金沢大学教育学部特別講演会が、12月3日、教職員養成審議会大学院等特別委員会委員であり、日本教育大学協会においても指導的な役割を果たしている加藤章上越教育大学長を迎えて、同学部で開催された。

今回の講演は、新しい教員養成の在り方、大学院修士課程を活用した現職教員研修の在り方等についての話題を中心に進められた。また、大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」も念入りに説明され、参加者の関心を引いた。



講演終了後の質疑応答
= 12月3日、教育学部で

退職後を楽しく過ごそう 「生涯生活設計セミナー」を開催

12月4日、市内のホテルを会場に、石川県下の文部省4機関に勤める45歳以上の教職員を対象とした「平成10年度生涯生活設計セミナー」が開催された。

今回は、「生涯生活設計セミナーについて」、「めざせ!すまいづくりの達人」、「生涯学習と生きがい」、「心の健康」の四つの講演があり、集まった約80人の参加者は、真剣な表情で受講していた。



講演中の内田忠平^{ただひら}教授(大学教育開放センター)
= 12月4日、KKRホテル金沢(金沢市大手町)で





教職員・学生が 危険薬品の取扱いを学ぶ

このたび発足した総合教育棟環境保全委員会が12月4日、施設を利用する教職員・学生に環境保全の意識を高めてもらおうと、「危険薬品及び廃液の取扱いに関する講習会」を開催した。講習会では、環境保全センターの道上義正助手が約50人の教職員・学生を前に危険薬品や廃液の処理方法などを分かりやすく説明した。



熱心に説明を聞く教職員ら
= 12月4日、総合教育棟で

“語学研修修了式”を行う

12月25日、事務局第4会議室で、「平成10年度語学要員養成研修修了証書授与式(英語初級コース及び中級コース)」が行われ、吉田真言庶務部長から修了者6名に修了証書が手渡された。

研修は受講者のレベルに応じて、学内外で約半年をかけて行われ、修了者の今後の活躍が期待される。



修了証書を受け取る研修修了者
= 12月25日、事務局第4会議室で

12月の研修スナップ

平成10年度ホームページ研修

期 日：12月1日～24日(期間中延べ5日)
受講者：ホームページ実務担当(予定)者 21名
場 所：総合情報処理センター



思い思いのホームページづくりにチャレンジした研修
= 12月15日、総合情報処理センターで



子供たち大喜び 劇「サンタさんありがとう」を公演

クリスマス直前の12月23日、学生サークルの児童文化部(部員44人)が劇「サンタさんありがとう」を公演した。場所は長田町児童会館で、集まった子供たちは長田町の児童を中心に約100人。

この劇は、部員の創作によるもので、サンタさんとトナカイさんの大の仲良しの“くまさん”が、男の子“くんちゃん”のもとにクリスマスプレゼントとして行ってしまおうお話。

子供たちにとっては、この日の劇・歌・ゲームが何よりのクリスマスプレゼントとなった。



サンタやトナカイと一緒に歌を歌う子供たち
= 12月23日、長田町児童会館(金沢市長田)

関連の写真もう1枚を
裏表紙にカラーで紹介

50 金沢大学50年の歩み
50年史編纂室収集資料から
(その6)高額コンピュータの導入
昭和40年代後半

1台が1億4千万円 新鋭電算機導入 昭和46年

現代、人間の生活はコンピュータなしでは考えられない。それは大学における教育研究にとっても同じである。

本学では、昭和37年度に3千3百万円の予算措置を受けて、全学組織の「電子計算機室」を理学部に設置したのがはじまり。昭和46年、小立野キャンパスに新築物が竣工し、総額1億4千万円の新鋭電算機1台を導入。名称を「計算機センター」と改称した。以来、学内における科学技術計算の中心としての役割を果たしてきた。当時の1億4千万円は、小売り消費者物価指数で換算すると現在の約4億2千万円。今の総合情報処理センターの機器レンタル料が年間約1億5千万円であることと比較しても、いかに高額かがうかがえる。

同センター完成の祝賀会で、中川善之助学長は「コンピュータは非常にたくさんのことを覚えさせると、いつまでも記憶している“愚直”な機械と聞く。新鋭のこの愚直な機械と、人間の優れた思

考とのコンビネーションが立派な成果をあげることを期待する。」とあいさつした。



コンピュータのスイッチを入れる中川学長(北国新聞:46.4.9朝刊から)

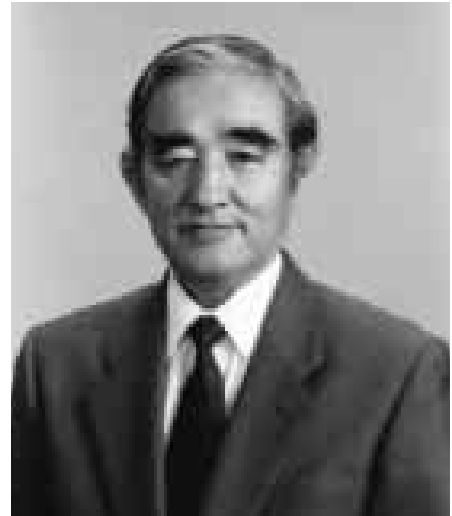




市村藤雄教授(病)が2つの快挙

医学部附属病院の市村藤雄教授(薬剤部長)は、このほど、日本薬学会から「平成11年度教育賞」の、日本薬剤学会から「平成11年度医療薬剤学功績賞」の受賞者に選出された。

“教育賞”は、同教授が全国に先駆けて、医療薬学系大学院の必須条件である臨床実務実習を確立したことや、教育に必要な教材を広く提供したことなどから医療薬学教育の発展に大いに貢献したことが認められたものであり、“医療薬剤学功績賞”は、同教授が長年研究してきた医薬品の安定性や体内動態、医薬品適正使用のための薬物治療モニタリング、遺伝子製剤開発等の一連の研究業績が認められたものである。



このたび受賞が決まった市村藤雄教授

平成10年度

“職員スポーツ大会”表彰式を行う

毎年恒例となっている職員スポーツ大会の表彰式が12月25日、事務局大会議室で行われた。ソフトボールがあいにくの天候不順により中止となった本大会は、卓球・硬式テニス・ボウリングの3種目のみの実施となったが、各入賞チームと入賞者は、うれしそうに賞状と副賞を受け取った。



硬式テニス優勝の表彰を受ける職員
= 12月25日、事務局大会議室

訃報

12月、現職お一人がお亡くなりになりました。ここに御報告するとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。



水上 稔 氏
(医学部保健学科教授)

12月22日逝去
享年64歳

編集後記

近年、産学官連携という言葉が新聞等の紙面を飾ることが多い。産学官の連携というのは、「社会の現実から学び、学んだ成果を社会に還元する」ということである。

本学でも、文部省学術国際局研究助成課の山田研究協力室長を招き、特別講演会「産学連携の促進を目指して」を開催したところ、参加予定をはるかに超える多くの教職員の参加をいただいた。

大学や産業界では、技術移転を含め、産学官の連携・

協力の新しい形態が生まれつつある。このように、国立大学も毎日がめまぐるしく変化していく今日、今後も機会を見てこのような講演会を計画していきたい。

1999年度の政府予算も昨年12月25日にまとまり、厳しい年になることも予想される。しかし、今年は創立50周年記念行事も盛沢山予定されており、少なくとも「アカンサス ニュース」では、明るい話題を数多く提供できる年になればと願う次第である。(山崎)



フィンランド ユバスキュラ大学と大学間交流協定を締結!



締結後握手を交わす両大学の学長
= 12月17日、フィンランド大使館(東京)で

12月17日、本学は、17番目の大学間交流協定校としてユバスキュラ大学(フィンランド)と協定を締結した。

フィンランド大使館で行われた調印式には、本学から岡田晃学長、ユバスキュラ大学からアイノ・サリネン学長が出席し、なごやかな雰囲気の中に協定が締結された。

同校はエラスムス計画(EUの学生交流計画)に積極的に参加しており、この点で今後の研究者・留学生の交流に大きな関心が寄せられている。

「児童文化部」劇を披露

(記事は6ページ)



子供たちを喜ばせた児童文化部の劇
= 12月23日、長田町児童会館で

THE DŌRAKU ⑦ 1等三角点めぐり

国土地理院が、正確な日本地図を作成するために、三角関数による測量を行った際の三角点がある。三角点には1等から4等までのランクが付けられ、1等三角点は全国に969か所あり、小豆島産の花崗岩を用いた18cm角で、山頂など眺望が良い場所に、先端部を15cmほど地表に露出して埋設されている。

山登りの手始めに北陸三県の1等三角点32か所を足掛け8年で踏破した。ちなみに標高が一番高い場所は立山、一番低い場所は金沢市立緑小学校内であった。踏破が困難だったのは、能登半島のセツ島に点在している大島と御厨島で漁船に乗せてもらって踏むことができた。

石川県内の1等三角点埋設場所は、上記のほか白山、富士写ヶ岳、大笠山、清水山、医王山、宝達山、蔵王山、遍照岳、河内岳、沖波山、三蛇山、鉢伏山、宝立山、舳倉島の17か所である。

宮崎幸一(教育学部附属学校)

このコーナーは、皆さんの趣味や熱中していることなどを紹介するコーナーです。いろいろな作品や季節感あふれる話題などをお寄せください。いつでも撮影に出向きます。



国見岳の1等三角点

平成11年1月22日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キューピーズ)」

(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。

本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jpでも受け付けています。